

(園長室だより) 108周年
令和7年3月3日 第201号

HPのQRコード→



「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本！

くやしい！気持ちを乗り越えて

高田幼稚園では、新年に子供たちがコマに挑戦します。年少のもも組は難易度の簡単なコマに、年長のまつ組は難しいコマに挑戦します。そして、2月中旬にこま回し大会を行っています。



今年も、それぞれの子供たちがコマ回し名人を目指し、遊戯室で遊んでいました。まつ組のある子は、自分でひもを巻き、勢いよくコマを投げ、何回も挑戦していました。そして、上手にくると回ると、遊戯室の黒板に「正」の字を一画ずつ書いていました。「正」の字がどんどん増えていくのを励みにまた頑張る姿が見られました。



そして、コマ回し大会がやってきました。まずは、3歳児の手回しコマです。「1・2・3〜！」と声をそろえて回し出しました。みんな上手に回っていますが、一つ一つとコマが止まっていきました。最後まで回っていた子が勝ちです。1回戦、2回戦、そして決勝戦と行い、もも組のコマ回し大会1位、2位、3位が決まりました。次は、年中のうめ組の子供たちの番です。そんな時、もも組の3位までに入れなかった子が、ぽつりと「くやしかった」とつぶやいたのです。そして、すぐにうめ組の子に向かって「がんばれ！」と応援を始めたのです。担任に聞くと、その子は、コマ回しが上手で練習ではよく回っていたそうです。小さいながら、悔しい気持ちを乗り越えて、そして気持ちを切り替え他の子の応援ができる、そんな姿に私は感動しました。

この心の成長は、どのように育ってきたのでしょうか。大人の「悔しくても泣かない」とか、「自分の番以外は応援しなさい」といった指導では育ちません。担任に今までの姿を聞いてみました。

もも組の子供たちは、初めは勝てないと「コマ回し大会やらないもん」と言っていたようです。そんな中、担任は、頑張っている子に「練習するって大事だね！」という言葉がけをしてきました。

また、カルタ取りやトランプゲームの勝ち負けのあるゲームでも、担任は、子供たちの様子を見て、言葉で褒めたり応援したり慰めたり、一緒に勝ちを喜んだりしてきたそうです。そんな中、次第に子供たちは自分ができるときだけでなく、友達ができたときにも「すごいね」「やったね」と声を掛ける姿が見られるようになってきたそうです。

普段からの担任の一人一人に合わせた温かい声かけやかかわりが、クラス全体に広がっていること。そして、子供たちはその声かけやかかわりのうれしさや気持ちの良さを感じ取っているからこそ、悔しい気持ちを乗り越え、思いやりのある言動ができるのだと感じました。